

国立宇部高専物質工学科MDASH応用基礎プログラム 令和6年度 自己点検・評価

実施日 : 令和7年4月2日(水)

会議名称 : 機関評価室会議

開催場所 : 宇部工業高等専門学校

目的 : 数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎レベル)

国立宇部高専物質工学科MDASH応用基礎プログラム

令和6年度の自己点検・評価

評価項目 : 自己点検・評価の視点

自己点検・評価（学内からの視点）

自己点検・評価の視点	評価	評価理由
プログラムの履修・修得状況	○	教育プログラムは全て必修科目から構成され、令和6年度の1年生から適用されている。入学した学生全員（定員40名）が入学年度に履修を自動的に開始している。令和6年度1年生の履修率は100%である。 令和6年度実施のプログラム構成科目の修得状況については、3月に行われた進級認定会議で確認した。
学修成果	○	学年末の進級認定会議において学生の履修・単位修得状況を把握し、クラス担任から学生に対して適切な指導を行っている。すべてのプログラム構成科目は少なくとも隔年で授業改善アンケートを実施して学修成果の確認を行っている。
アンケートによる学生の理解度確認	○	教育プログラムは令和6年度の1年生から適用されている。1年生が受講した授業に対する授業改善アンケート内で学習到達度を学生が自己評価を行っている。その結果を資料にまとめた。1年生が受講した授業に対する授業改善アンケート内で、学生が学習到達度の自己評価を行っている。その結果では、若干の学生が未到達という自己評価を行っているが、多くの学生は理解度に対して高い評価を行っている。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	—	本教育プログラムの構成科目は、すべて必修科目となっており、後輩等他の学生への推奨する状況は生じない。また、本教育プログラムは開始間もないため、今後、学生向けに説明の機会を増やし、履修の参考となるよう情報を発信していく予定である。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	○	本教育プログラムの構成科目は、すべて必修科目となっていることから、物質工学科のすべての学生が履修を行う。1年生は43名が全員履修を行い、単位を取得している。

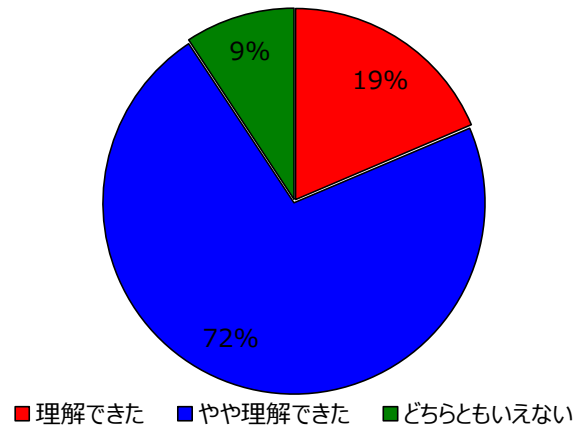
自己点検・評価（学外からの視点及びその他）

自己点検・評価の視点	評価	評価理由
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	－	令和6年度末の時点で本教育プログラムの修了者はいないが、将来的には教育プログラム修了生の進路状況を継続的に調査・記録する予定である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	○	令和6年度後期に地域企業に対して、物質工学科における情報技術教育の重要性に関してアンケート調査を行い、情報技術と専門領域を融合した教育の実施に対して要望の声が非常に高いことを確認した。一方、教育研究、管理運営、地域連携等に関する事項に関して学外有識者からの助言を求めるため、運営諮問会議を毎年度開催して意見を収集するとともに、教務委員会における教育プログラムの改善・進化活動をプログラムの改善に活用している。

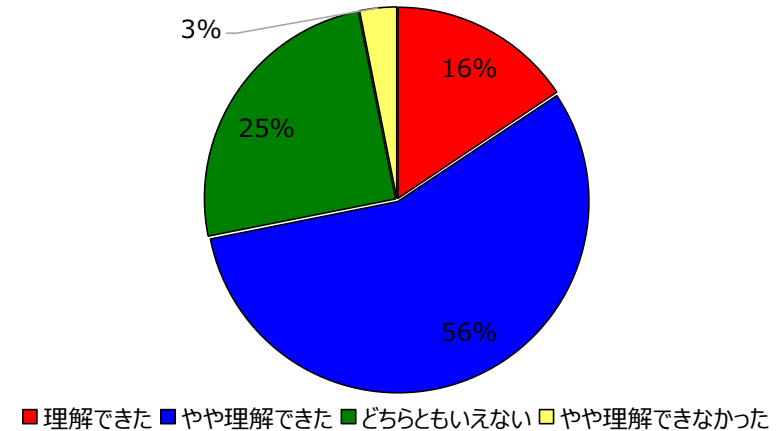
自己点検・評価の視点	評価	評価理由
数理・データサイエンス・A I を「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	○	「情報処理 I 」及び「物質工学総論」において、数理・データサイエンス・A I を学ぶ意義について説明を行っている。また、「情報処理 I 」では演習室でパソコンに触れることを通じて、学ぶ楽しさを体験させている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	○	本教育プログラムと並列開講しているリテラシーレベルの教育プログラムでは、実社会で情報やAIがどのように活用されているか、先進的な事例に触れる授業内容となっており、数理・データサイエンス・AIに対する理解を深めている。

資料：令和6年度 1 年生理解度自己点検結果

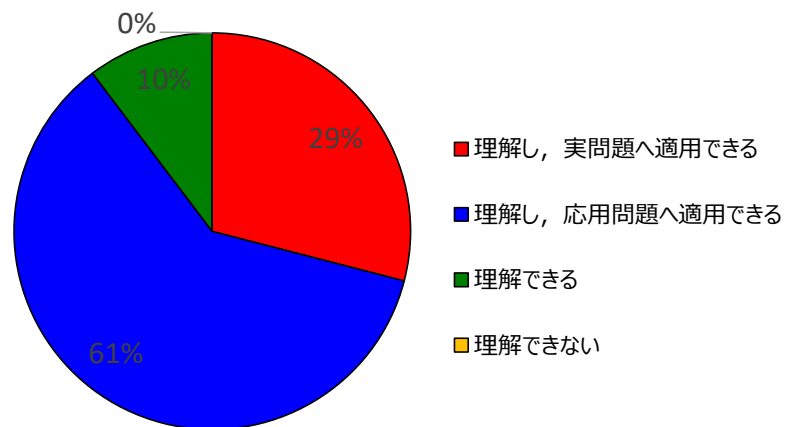
情報処理 I：ITセキュリティについて理解できたか。



物質工学総論：ビッグデータについて理解できたか。



ジェネリックスキル I：統計の基礎を理解できたか？



情報セキュリティの重要性を理解できたか？

